

保健体育科 実態調査の実施にあたって

I 実施方法

1. 各段階の目標や、前回行われた実態調査をもとに、それぞれの児童生徒の段階を、「体づくり運動」、「器械運動」、「球技」、「水泳」、「陸上」、「ダンス」、「保健」、「武道」、「体育理論」の9つの領域に沿って観点別に把握する。
2. 保健体育科の実態調査においては、各領域の単元中や単元終了後に評価する。また、年度末につけた評価について見直す。
3. 調査項目だけでなく、指導事項の文言に沿って判定を行う。
例) 体づくり運動・小1段階では「教師と一緒に～」という条件下で可か不可かを判断する。
4. ○は調査項目を達成しており、いつでもできるものにつける。△は項目に書いてある内容に加えて、教師の支援によってできるものや、条件付きでできるものなどにつける。
5. △をつけた場合には、どんな条件だとできるのかを備考欄に端的に記入する。
6. △や無印の部分について、今後、指導計画に反映できるか検討する。

II 留意点

「保健体育科 実態調査表」を使用するにあたり、以下の点に留意をする。

- 児童生徒の実態に応じて、MEPA-Rを用いて運動スキルや身体意識の実態を捉えるようにする。
- 現状、指導要領解説等から、調査項目を作成しているため、分かりづらい部分がある。
※より具体的な子どもの姿として表すことができるように、今後、調査項目を改定していく。
- 〔体育〕〔保健体育〕については「学びに向かう力、人間性等に関わる指導事項があるが、本調査票では扱わないが、授業における目標設定や評価の際、留意する必要がある。

体づくり運動

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
小1 段階	教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	教師と一緒に、手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと。	教師の手足を真似てしゃがんだり立ったりすることができる。		
			その場跳びをすることができる。		
			転がることができる。		
			なわやテープの上を歩くことができる。		
			なわやテープを踏まないようにまたいで歩くことができる。		
小2 段階	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な体づくり運動をすること。	「体ほぐしの運動」		
			伸び伸びとした動作で運動を行うことができる。		
			リズムに乗って弾むような動作で運動を行うことができる。		
			動作や人数などの条件を整えて、歩いたり走ったりする運動をすることができる。		
			「多様な動きをつくる運動」		
			片足を軸にして、右回り・左回りに回転することができる。		
			片足立ちでバランスを保つ運動をすることができる。		
			大また小またなどの歩き方をすることができる。		
			直線上を歩いたり、一列に並んで歩いたりすることができる。		
			大きな円を右回りや左回りに這うことができる。		
			大きな円を右回りや左回りに歩いたり、走ったりすることができる。		
			大きさと重さの異なるボールを両手でつかんで、持ち上げたり、下ろしたりすることができる。		
			無理のない速さで続けてかけ足をすることができる。		
			長なわでの大波・小波をすることができる。		
			小3 段階	基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようになる。	基本的な体づくり運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動を行うことができる。					
リズムに乗って弾むような動作で運動を行うことができる。					
動作や人数などの条件を整えて歩いたり走ったりする運動をすることができる。					
伝承遊びや集団による運動を行うことができる。					
「多様な動きをつくる運動」					
後ろ歩きで歩けることができる。					
横歩きで歩けることができる。					
リズムに合わせて行進することができる。					
立った姿勢からリズムよくはねながら、右回りに回転することができる。					
立った姿勢からリズムよくはねながら、左回りに回転することができる。					
押し合い相撲で、重心を低くして相手を押すことができる。					
押し合い相撲で、相手から押されないように踏ん張ることができる。					
友達と手をつないで、立つ・座ることができる。					
友達と肩を組んで、立つ・座ることができる。					
友達と背中合わせをして、立つ・座ることができる。					
横向きに走ることができる。					
後ろ向きに走ることができる。					
斜めに走ることができる。					
曲線やジグザグなどの走路を走ることができる。					
細い走路を走ることができる。					
無理のない速さでかけ足を3～4分程度続けることができる。 ※個々の児童の能力等に応じて適切な時間を設定する。					
ボールや棒など大きさや種類の異なる用具を片手で投げるができる。					
ボールや棒など大きさや種類の異なる用具を両手で投げるができる。					
短なわを揺らして、前の連続両足跳びをすることができる。					
短なわを揺らして、後ろの連続両足跳びをすることができる。					
短なわを回転して、前の連続両足跳びをすることができる。					
短なわを回転して、後ろの連続両足跳びをすることができる。					
友達をおんぶすることができる。					
友達をおんぶして歩くことができる。					

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小1 段階	体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようになる。	手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	手足を動かして感じた楽しさや心地よさを一緒に活動している教師に、表情や身振りアイコンタクトなどで表現している。		
			体づくり運動遊びの中で、言葉やジェスチャーなどで「もう一度」などと要求している。		
小2 段階	基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	基本的な体づくり運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	自然に体を動かし、歩く、走る、跳ぶなどの動作をしている。		
			体を動かして感じた楽しさや心地よさを感じたことを、言葉や表情、ジェスチャーなどで、教師に知らせたり、友達に知らせたりしている。		
			体づくり運動の中で、手の汚れや体の痛みを教師に伝えている。		
			体づくり運動の中で、体の動かし方を工夫している。		
小3 段階	基本的な運動の楽しさや健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。	基本的な体づくり運動の楽しさを工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	体の動かし方で気付いたことを友達に伝えている。		
			友達が痛がっていたり、怪我をした様子などについて教師に伝えている。		
			体づくり運動の中で、体の動かし方を工夫している。		

活動例
<ul style="list-style-type: none"> ○ラジオ体操 ○マットワーク ○長縄跳び ○風船を友達に渡す ○つるした風船を触る ○ボールを挟んで歩く ○タイミングを合わせてジャンプ ○引っ張りっこ ○だるまさんが転んだ
「体ほぐしの運動」
<ul style="list-style-type: none"> ○ラジオ体操 ○マットワーク ○長縄跳び ○みんなで風船をつく ○ボールを挟んで歩く ○タイミングを合わせてジャンプ ○引っ張りっこ ○だるまさんが転んだ ○じゃんけん列車
「多様な動きをつくる運動」
<ul style="list-style-type: none"> ○体につけた新聞紙を落とさないようにくっつけて走る ○ラダーを用いて歩く、走る、跳ぶ(大股、小股など) ○けんけんば ○片足で押し相撲 ○一人鬼 ○手つなぎ鬼 ○子増やし鬼
「体ほぐしの運動」
<ul style="list-style-type: none"> ○風船サッカー ○リーダーのまねをして走る ○手つなぎ鬼
「多様な動きをつくる運動」
<ul style="list-style-type: none"> ○しっぽ取りゲーム ○後ろ歩き、横歩きなど ○押し合いずもう ○その場ジャンプ ○二人組みでボールを挟んで走る

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中1段階 各種の運動の楽しさや喜びにふれ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かる。基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	体づくり運動	「体ほぐしの運動」	
		友達と開わりながら伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動を行うことができる。	
		友達と開わりながらリズムに乗って心が弾むような動作で運動を行うことができる。	
		友達と開わりながら動作や人数などの条件を変えて、歩いたり走ったりする運動を行うことができる。	
		友達と開わりながら伝承遊びや集団による運動を行うことができる。	
		「体の動きを高める運動」	
		友達と手をつないで立つことができる。	
		友達と手をつないで立った状態から座ることができる。	
		友達と背中合わせになって立つことができる。	
		友達と背中合わせになって立った状態から座ることができる。	
		平均台など、少し高さのある器具の上を動物歩きで歩くことができる。	
		平均台など、少し高さのある器具の上を横歩きで歩くことができる。	
		物や用具の間を遠く、方向を変えて這うことができる。	
		物や用具の間を遠く、方向を変えて歩くことができる。	
		物や用具の間を遠く、方向を変えて走ることができる。	
		両足で跳び、手足の動作を伴って全身じゃんけんをすることができる。	
		人数を変えて綱引きをすることができる。	
		登り棒や助木をしっかりと握り、数を数えながら一定の時間ぶら下がること	
		ラジオ体操や学校や地域で親しまれている簡単なリズムに合わせて行う体操をすることができる。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中2段階 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	体づくり運動	「体ほぐしの運動」	
		友達と伸び伸びとした動作で用具などを用いた運動を行うことができる。	
		ペアになって互いの心や体の状態に気付き合いながら体を揺らすなどの運動を行うことができる。	
		友達と動作や人数などの条件を変えて、歩いたり走ったりする運動を行うことができる。	
		友達と伝承遊びや集団による運動を行うことができる。	
		「体の動きを高める運動」	
		体の各部位を大きく広げたり曲げたりして姿勢を維持することができる。	
		ゴムひもを張りめぐらせて作った空間をくぐり抜けることができる。	
		棒の下や輪の中をくぐり抜けることができる。	
		用具などを等間隔に並べた走路をリズムカルに走ったり跳んだりすることができる。	
		跳び箱や平均台などの器具で作った段差のある走路をリズムカルに走ったり跳んだりすることができる。	
		用具をコントロールしながら投げるができる。	
		用具をコントロールしながら捕ることができる。	
		用具をコントロールしながら回ることができる。	
		用具をコントロールしながら転がることができる。	
		様々な姿勢での腕立て伏臥屈伸をすることができる。	
		全身に力を込めて登り棒に捕まることができる。	
		助木や雲梯にぶら下がること	
		短なわ・長縄を使って全身運動を続けることができる。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
		「体ほぐしの運動」	
		仲間と積極的に開わりながら、のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことができる。	
		仲間と積極的に開わりながら、リズムに乗って心が弾むような運動を行うことができる。	
		いろいろな条件で、歩いたり走ったり跳びはねたりする運動を行うことができる。	
		ラジオ体操や地域で親しまれている曲に合わせて行う体操などをすることができる。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	体づくり運動	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを継続する能力など、自分の課題となる点を客観的に見付けている。
		課題を解決する活動や工夫したことを他者に伝えている。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	体づくり運動	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	手軽な運動を行い、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動きなどの問題となる点を客観的に見付けている。
		自分の課題についてグループで意見を出し合ったり、解決策や改善方法をグループでまとめたりしている。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝える力を養う。	体づくり運動	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝えること。	手軽な運動を行う中で自分や友達の心と体の状態に気付いている。
		仲間との開わり合いや健康安全についての課題を発見している。	
		自分の課題について、考えたことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間や教師などに理由を添えて伝えている。	

活動例
「体ほぐしの運動」 ○となりの人の手をたいたり自分のひざをたいたり変化をつけた運動 ○気持ちのよいところまで押したり引っ張ったりするストレッチ ○リーダーのまねをして走る ○エンドレス鬼 ○手つなぎ鬼 ○おしくらまんじゅう ○なべなべそこぬけ ○じゃんけんおんぶ ○短縄で二人跳び ○新聞紙に何人乗れるか ○風船バレーボール ○みんなで輪になってスキップ
「体の動きを高める運動」 ○補助して一輪車 ○フープキャッチ、くぐり ○バランスボール ○手押し車 ○ペアで手をつないで片足立ち ○短なわで跳びながら歩いたり走ったりすること ○上に投げたボールを落とさないようにキャッチする

活動例
「体ほぐしの運動」 ○となりの人の手をたいたり自分のひざをたいたり変化をつけた運動 ○気持ちのよいところまで押したり引っ張ったりするストレッチ ○リーダーのまねをして走る ○エンドレス鬼 ○手つなぎ鬼 ○おしくらまんじゅう ○なべなべそこぬけ ○じゃんけんおんぶ ○短縄で二人跳び ○新聞紙に何人乗れるか ○風船バレーボール ○みんなで輪になってスキップ
「体の動きを高める運動」 ○補助して一輪車 ○フープキャッチ、くぐり ○バランスボール ○手押し車 ○ペアで手をつないで片足立ち ○短なわで跳びながら歩いたり走ったりすること ○上に投げたボールを落とさないようにキャッチする

活動例
「体ほぐしの運動」 ○となりの人の手をたいたり自分のひざをたいたり変化をつけた運動 ○気持ちのよいところまで押したり引っ張ったりするストレッチ ○リーダーのまねをして走る ○エンドレス鬼 ○手つなぎ鬼 ○おしくらまんじゅう ○なべなべそこぬけ ○じゃんけんおんぶ ○短縄で二人跳び

段階	段階の目標	指導事項	判定	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例
高1段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	体づくり運動 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、その行い方や方法を理解するとともに、仲間と積極的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりすること。	「体の動きを高める運動」 大きくリズムカルに全身や体の各部位を振ることができる。 大きくリズムカルに全身や体の各部位を回すことができる。 大きくリズムカルに全身や体の各部位をねじることができる。 床やグラウンドに設定した様々な空間をリズムカルに歩くことができる。 床やグラウンドに設定した様々な空間をリズムカルに走ることができる。 床やグラウンドに設定した様々な空間をリズムカルに跳ぶことができる。 床やグラウンドに設定した様々な空間を素早く移動することができる。 重い物を押す、引く、投げる、受ける、振る及び回すことができる。 ジョギングを一定の時間持続して行うことができる。 ジョギングを自己で決めた時間や回数を行うことができる。 縄跳びを一定の時間や回数持続して行うことができる。 縄跳びを自己で決めた時間や回数を行うことができる。					「体の動きを高める運動」 ○補助して一輪車 ○フラフープキャッチ、くぐり ○バランスボール ○手押し車 ○ベアで手をつないで片足立ち ○短時間で跳びながら歩いたり走ったりすること ○上に投げたボールを落とさないようにキャッチする
高2段階	各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	体づくり運動 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを深く味わい、その行い方や方法の理解を深めるとともに、仲間と自主的に関わったり、動きを持続する能力などを高める運動をしたりするとともに、それらを組み合わせること。	「体ほぐしの運動」 仲間と自主的に関わり合い、緊張したり緊張を解いて脱力したりする運動を行うことができる。 仲間と自主的に関わり合い、いろいろな条件で、歩いたり走ったりする運動を行うことができる。 仲間と自主的に関わり合い、いろいろな条件で、飛び跳ねる運動を行うことができる。 仲間と協力的に課題を達成するなど、集団で挑戦するような運動を行うことができる。 ラジオ体操や地域で親しまれている曲に合わせて行う体操などをすることができる。 「体の動きを高める運動」 体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動の中から、一つのねらいを取り上げ、それを高めるための運動を効率よく組み合わせることができる。	各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	体づくり運動 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。	体づくり運動について、ゲームの行い方や練習の仕方、仲間との関わり方を、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考え、選択している。 体づくり運動について、安全に練習やゲームをする最善の方法を仲間とともに考え、選択している。 体づくり運動について、これまで学習した運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適用したり、応用したりしている。	「体ほぐしの運動」 ○となりの人の手をたいたり自分のひざをたいたり変化をつけた運動 ○気持ちのよいところまで押したり引っ張ったりするストレッチ ○リーダーのまねをして走る ○エンドレス鬼 ○手つなぎ鬼 ○おしらまんじゅう ○なべなべそこめけ ○じゃんけんおんぶ ○短縄で二人跳び ○新聞紙に何人乗れるか ○重鉛ペーパーボール ○みんなで輪になってスキップ	

器械運動

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
小1 段階	教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	器械・器具を用いた遊び	教師と一緒に、器械・器具を使って楽しく体を動かすこと。	「固定施設を使った運動遊び」	
				教師の補助を受けながら、ジャングルジムで登り下りやぶら下がりなどを体験しながら遊ぶことができる。	
				教師の補助を受けながら、ブランコに乗って前後の揺れなどを体験しながら遊ぶことができる。	
				教師の補助を受けながら、トランポリンの上に乗る、上下の揺れなどを体験しながら遊ぶことができる。	
				「マットを使った運動遊び」	
				教師の補助を受けながら、マットの上に背中をつけ、いろいろな転がりをして遊ぶことができる。	
				「低鉄棒を使った運動遊び」	
				教師の補助を受けながら、ぶら下がりをしながら遊ぶことができる。	
				「跳び箱を使った運動遊び」	
				教師の手本を真似して、よじ登ったり、低い位置から跳び下りたりして遊ぶことができる。	
段階の目標	指導事項	調査項目	判定		
小2 段階	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	器械・器具を用いた運動	教師の支援を受けながら、楽しく器械・器具を用いた基本的な運動をすること。	「固定施設を使った基本的な運動」	
				ジャンピングボードやトランポリンを使って上下にはねるなどをすることができる。	
				低い平均台を使って、渡り歩きや跳び下りなどをすることができる。	
				「マットを使った基本的な運動」	
				マットに背中を順番に接触させるなどして、様々な方向に転がりをするることができる。	
				「低鉄棒を使った基本的な運動」	
				跳び上がって支持したり、支持から跳び下りたりすることができる。	
				「跳び箱を使った基本的な運動」	
				跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、またいだ姿勢で手を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすることができる。	
				段階の目標	指導事項
小3 段階	基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようになる。	器械・器具を用いた運動	器械・器具を用いた基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。	「固定施設を使った基本的な運動」	
				細い平均台を前向きに歩いたり、後ろ向きに歩いたりすることができる。	
				「マットを使った基本的な運動」	
				手を上に上げ体をまっすぐ伸ばした状態でマットの上に寝転がり、連続してまっすぐ横転がりをするることができる。	
				しゃがんだ姿勢から手で支えながら腰を上げ、体を丸めながら後頭部・背中・尻・足裏の順にマットに接して前方に回転し立ち上がることができる。	
				「鉄棒を使った基本的な運動」	
				鉄棒にぶら下がり、支持した状態から体を前後に振ることができる。	
				低鉄棒に跳び上がり、前回り下りをするることができる。	
				「跳び箱を使った基本的な運動」	
				教師の支援を受けながら、両手を着いて跳び乗ったり、跳び下りたりすることができる。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小1 段階	体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	器械・器具を用いた遊び	器械・器具を用いた遊び	器械器具を使って感じた楽しさや心地よさを一緒に活動している教師に、表情や身振り、アイコンタクトなどで表現している。	
				器械器具を使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	
				器械運動について、言葉やジェスチャーなどで「もう一度」などと要求している。	
段階の目標	指導事項	調査項目	判定		
小2 段階	基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	器械・器具を用いた運動	器械・器具を用いた運動	器械器具を使って、自然に体を動かしている。	
				器械器具を使って感じた楽しさや心地よく感じたことを、言葉や表情、ジェスチャーなどで、教師に知らせたり、友達に知らせたりしている。	
				器械・器具を用いた基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	
				手や足などの痛みを、言葉や表情ジェスチャーなどで教師に伝えている。	
段階の目標	指導事項	調査項目	判定		
小3 段階	基本的な運動の楽しみ方や健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことを他者に伝える力を養う。	器械・器具を用いた運動	器械・器具を用いた運動	器械・器具を用いた運動の中で、体の動かし方を工夫して練習している。	
				平均台を歩いたり、マットの上を回ったりするための方法や気付いたことを友だちや教師に伝えている。	
				器械・器具を用いた基本的な運動の行い方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことを他者に伝えること。	
				友だちが痛がっていたり、けがをしったりした様子などについて、教師に伝えている。	
段階の目標	指導事項	調査項目	判定		

活動例
「固定施設を使った運動遊び」 ○ジャングルジム ○ブランコ ○トランポリン
「マットを使った運動遊び」 ○横転がりなどいろいろな転がり
「低鉄棒を使った運動遊び」 ○ぶら下がり
「跳び箱を使った運動遊び」 ○よじ登りや跳び下り
「固定施設を使った基本的な運動」 ○ジャンピングボード ○トランポリン
「マットを使った基本的な運動」 ○ゆりかご ○前転がり ○後ろ転がり
「低鉄棒を使った基本的な運動」 ○跳び上がり ○跳び下り
「跳び箱を使った基本的な運動」 ○またぎ乗る ○またぎ下り
「固定施設を使った基本的な運動」 ○平均台を使った運動
「マットを使った基本的な運動」 ○連続横転がり ○前転
「鉄棒を使った基本的な運動」 ○ぶら下がって体を前後に振る ○低鉄棒で前回り下り
「跳び箱を使った基本的な運動」 ○跳び乗り、跳び下り

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中1段階	各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かること。	「マット運動」	
			前転を連続してすることができる。	
			しゃがんだ姿勢から体を丸めて尻・背中・後頭部・足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方へ回転し、両手で押ししてしゃがみ立ちになることができる。	
			傾斜を作った場で、両手を着き、腰を高く上げながら、後頭部をつき前方へ回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き接地することができる。	
			素早く両手を股の近くに置いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすることができる。	
			「鉄棒運動」	
			低鉄棒を掴み、掴んだ手の間の鉄棒に足を掛けて回ることができる。(足抜き回り)	
			高鉄棒にぶら下がり、支持した状態から体を前後に振り、前方へ跳ぶことができる。	
			「跳び箱運動」	
			両手を跳び箱について、両足で踏み切り、跳び箱の外側を跳び越すことができる。(腕立て横跳び越し)	
			「平均台を使った運動」	
			平均台の上で、バランスを取り、回れ右で後ろに方向転換することができる。	
平均台の上で、片足立ちでポーズをとるなどをするることができる。				

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	器械運動 器械器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	マットで回ったり、跳び箱を跳んだりするための練習方法を工夫するために、自分が苦手とする動きに気付いている。	

活動例
「マット運動」
○連続前転 ○後転 ○場を使った開脚前転
「鉄棒運動」
○足抜き回り ○高鉄棒にぶら下がって体を前後に振って跳ぶ
「跳び箱運動」
○腕立て横跳び越し
「平均台を使った運動」
○後ろに方向転換 ○ポーズ

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中2段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技を身に付けること。	「マット運動」	
			後転を連続してすることができる。	
			しゃがんだ姿勢から、体を丸めながら尻・背中・後頭部・足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方に回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、両手で押しして膝を伸ばしたまま開脚立ちをすることができる。(開脚後転)	
			壁に向かって体を前方に振り下ろしながら片足を振り上げ、両手を着き体をまっすぐ伸ばして壁に足をもたれかけて倒立することができる。(壁倒立)	
			「鉄棒運動」	
			補助具を利用して、連続して逆上がりをすることができる。	
			鉄棒上の支持姿勢から回転して着地まで、一連の動きとしてスムーズに下りることができる。(前回り下り)	
			「跳び箱運動」	
			助走から両脚で踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地することができる。(開脚跳び)	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	器械運動 器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	器械運動の自分の課題について客観的に見つけて改善しようとしている。	

活動例
「マット運動」
○連続後転 ○開脚後転 ○壁倒立
「鉄棒運動」
○補助逆上がり ○前回り下り
「跳び箱運動」
○開脚跳び

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高1段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	器械運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに、技能を身に付けること。	「マット運動」	
			体を前方に振り下ろしながら片足を振り上げ両手を着き、体を真っ直ぐに伸ばして逆さの姿勢になり、補助者の支えで倒立することができる。(補助倒立)	
			片足を振り上げ補助倒立を行い、前に倒れながら腕を曲げ、頭を入れて前転することができる。(補助倒立前転)	
			「鉄棒運動」	
			支持の姿勢から前方へ大きく振り出して、腰を曲げたまま回転し、両足を揃えて開始した側に着地することができる。(前方かかえ込み回り)	
			足の振り上げとともに腕を曲げ、上体を後方へ倒し手首を返して鉄棒に上がるることができる。(逆上がり)	
			「平均台運動」	
			平均台の上で、重心を乗せバランスよく前方に走ることができる。	
			平均台の上で、片足を後方に上げながら上半身を前方に倒し、上げた足と上半身が水平になるようにして両腕を左右に広げバランスを取ることができる。	
			「跳び箱運動」	
			助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越して着地することができる。(かかえ込み跳び)	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝える力を養う。	器械運動 器械運動についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	器械運動について、提示された動きなどのポイントと自分や他者の動きを比較して課題を発見している。	
		器械運動について、仲間との関わり合いや健康安全についての課題を発見している。	
		器械運動について、基本的な知識や技能を活用して、自己の課題に応じた練習の取り組み方を工夫している。	
		器械運動について、自分やチームの課題について、考えたことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間や教師などに理由を添えて伝えたりしている。	

活動例
「マット運動」
○補助倒立 ○補助倒立前転
「鉄棒運動」
○前方かかえ込み回り ○逆上がり
「平均台運動」
○前方走 ○片足水平バランス
「跳び箱運動」
○かかえ込み跳び

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高2段階	各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	器械運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、演技すること。	「マット運動」	
			直立の姿勢から前屈しながら後方へ倒れ、尻をつき、膝を伸ばして後方に回転し、両手でマットを押して膝を伸ばしたまま立ち上がることができる。(伸膝後転)	
			正面を向き、体を前方へ振り下ろしながら片足を振り上げ、前方に片手ずつ着き、腰を伸ばした姿勢で倒立位を経過し、側方回転しながら片足を振り下ろして起き上がることができる。(側方倒立回転)	
			「鉄棒運動」	
			支持の姿勢から腰と膝を曲げ、体を前方に勢いよく倒して腹を掛けて回転し、その勢いを利用して手首を返しながら支持の姿勢に戻ることができる。(前方支持回転)	
			支持の姿勢から腰と膝を曲げたまま体を後方に勢いよく倒し、腹を鉄棒に掛けたまま回転し、手首を返して支持の姿勢に戻ることができる。(後方支持回転)	
			「平均台運動」	
			台の位置を確認しながら振り出す足の動かし方、重心を乗せバランスよく移動する動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて移動することができる。(体操系歩走)	
			姿勢、動きのリズムなどの条件を変えて移動することができる。(体操系歩走)	
			学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで移動することができる。(体操系歩走)	
			跳び上がるための踏み切りの動き方、空中で姿勢や動きを変化させて安定した着地を行うための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて跳躍することができる。(体操系跳躍)	
			姿勢、組合せの動きなどの条件を変えて跳躍することができる。(体操系跳躍)	
			学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで跳躍することができる。(体操系跳躍)	
			バランスよく姿勢を保つための力の入れ方とバランスの崩れを復元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させてポーズをとることができる。(バランス系ポーズ)	
			姿勢の条件を変えてポーズをとることができる。(バランス系ポーズ)	
			学習した基本的な技を発展させて、一連の動きでポーズをとることができる。(バランス系ポーズ)	
			バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、回転をコントロールするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて方向転換することができる。(バランス系ターン)	
			姿勢の条件を変えて方向転換することができる。(バランス系ターン)	
			学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで方向転換することができる。(バランス系ターン)	
			「跳び箱運動」	
助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。(伸膝台上前転)				

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	器械運動	器械運動について、きれいな姿勢になるように、自己の技能・体力の程度に合わせて目標を設定することができる。	
		器械運動について、よりきれいな姿勢で回ったり正確に着手したりするための練習の仕方について、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考え、選択している。	
		器械運動について、安全に練習する最善の方法を仲間とともに考え、選択している。	
		器械運動について、これまで学習した運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適用したり、応用したりしている。	

活動例
「マット運動」
○伸膝後転 ○側方倒立回転
「鉄棒運動」
○前方支持回転 ○後方支持回転
「平均台運動」
○台上を歩いたり走ったりして移動する(体操系歩走) ○台上へ跳び上がる、台上で跳躍する、台上から跳び下りるなど(体操系跳躍) ○台上でいろいろな姿勢でポーズをとる(バランス系ポーズ) ○台上で方向転換する(バランス系ターン)
「跳び箱運動」
○伸膝台上前転

陸上運動

段階	知識及び技能			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小1段階	教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	走・跳の運動遊び 教師と一緒に、走ったり、跳んだりして楽しく体を動かすこと。	「走る運動遊び」	
			教師の言かけ声に合わせて、一定の時間や距離を一緒にゆっくり走ったり、早く走ったりすることができる。	
			「跳ぶ運動遊び」	
			教師の合図や言葉掛けに合わせて、両足や片足で、その場で上方に跳ぶことができる。	
			教師の合図や言葉掛けに合わせて、両足や片足で、前方に跳ぶことができる。	

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	
			調査項目	判定
小2段階	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	走・跳の運動 教師の支援を受けながら、楽しく走・跳の基本的な運動をすること。	「走る運動」	
			30m程度のかげこで、教師の手拍子や言葉掛けに合わせて一定の速度で走ったりすることができる。	
			緩やかなカーブを蛇行して走ることができる。	
			折り返しのリレーなどで、教師や友達と手のひらを 向けてタッチするなどをすることができる。	
			「跳ぶ運動」	
			教師の言葉掛けでタイミングを計りながら、一人で片足や両足で連続して上方に跳ぶことができる。	
			教師の言葉掛けでタイミングを計りながら、一人で片足や両足で連続して前方に跳ぶことができる。	
			ミニハードルを使って、歩いたり走ったりしながらまたいだり、跳び越えたりすることができる。	

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	
			調査項目	判定
小3段階	基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようになる。	走・跳の運動 走・跳の基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。	「走る運動」	
			3～4分程度の時間を一定の速さでゆっくり走ることができる。	
			30～50m程度の距離を全力で走ることができる。	
			ジグザグ、S字のレーンで走ることができる。	
			「跳ぶ運動」	
			ケンパー跳びで片足や両足で連続して前方に跳ぶことができる。	
			輪や段ボールなどの低い障害物を使って、走る運動と合わせながら、助走をつけて、勢いよく跳び越えることができる。	

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	
			調査項目	判定
中1段階	各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	陸上運動 陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。	「短距離走りレー」	
			速度や方向を変えて走ることができる。	
			座った状態や後ろ向きなどのいろいろな走り出しの姿勢から、素早く走り始めることができる。	
			リレーにおいて、走る順番を守ったり、走りながらバトンをしたりすることができる。	
			「長距離走」	
			決められた時間や距離を走り続けることができる。	
			「小型ハードル走(障害物走)」	
			幅広い障害物や小型ハードルを自分に合ったリズムで走り越すことができる。	

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	
			調査項目	判定
中2段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	陸上運動 陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。	「短距離走りレー」	
			50～80m程度の短距離を全力で走ることができる。	
			リレーで、バトンの持ち方や受け渡し方などの約束を守って、走りながらバトンを渡すことができる。	
			「長距離走」	
			個々のタイムや距離などの目標を目指しながら走り続けることができる。	
			「小型ハードル走(障害物走)」	
			幅広い障害物や小型ハードルをリズムカルに走り越えることができる。	
			「跳ぶ運動」	
			助走を付けて片足で地面を蹴って上方に跳ぶことができる。	
			助走を付けて片足でしっかりと地面を蹴って遠くに跳ぶことができる。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	
			調査項目	判定
小1段階	体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	走・跳の運動遊び 走ったり、跳んだりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	走ったり跳んだりする楽しさや心地よさを一緒に活動している教師に、表情や身振りアイコンタクトなどで表現している。	
			走・跳の運動遊びの中で言葉やジェスチャーなどで「もう一度」などと要求している。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	
			調査項目	判定
小2段階	基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	走・跳の運動 走・跳の基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	自然に走ったり、跳んだりして体を動かしている。	
			走ったり跳んだりして感じた楽しさや心地よさを感じたことを、言葉や表情、ジェスチャーなどで、教師に知らせたり、友達に知らせたりしている。	
			疲れや足の痛みなどを教師に伝えている。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	
			調査項目	判定
小3段階	基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようになる。	走・跳の運動 走・跳の基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。	誰と一緒に走るかなど楽しく走るための方法を選択している。	
			速く走るために動きを変えている。	
			友だちが怪我をしたときに伝えている。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	
			調査項目	判定
中1段階	各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	陸上運動 陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	走ったり跳んだりする上での、自分が苦手とする動きに気付いている。	
			自分の能力に合った速度を見付けている。	
			自分の課題に合った練習方法を見付けている。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	
			調査項目	判定
中2段階	各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	陸上運動 陸上運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	バトンの受け渡し方について、チームとしての課題を見つけている。	
			速く走るためにどうすればよいかなど、友だちと意見を出し合って考えたり、解決策や改善方法をグループでまとめている。	

活動例
「走る運動遊び」
○音楽に合わせて速度を変えて走る活動 ○しっぽとりゲーム
「跳ぶ運動遊び」
○楽しみながら自然と跳ぶことのできる活動 ○飛び石ジャンプ ○動物なりきりジャンプ ○トランポリン

活動例
「走る運動」
○30m走 ○折り返しリレー ○鬼ごっこ遊び ○くねくね走 ○ぐるぐる走じゃんけん ○サークルリレー
「跳ぶ運動」
○ラダー運動 ○ミニハードル走 ○リズム体操

活動例
「走る運動」
○短距離走 ○リレー ○ミニハードル走 ○ライン走り競争(じくざぐやS字) ○音楽が鳴り終わるまで走る活動
「跳ぶ運動」
○ケンケンバじゃんけん ○縄跳び ○障害物リレー

活動例
「短距離走」
○距離を決めて調子よく、全力疾走をする。速度や方向を変えて走る。 ○スタートダッシュ走等を行い、短い距離(5m、10m)を前傾姿勢を意識して走る。
「長距離走」
○ミニ駅伝 ○10分間走
「小型ハードル走」
○膝に目印を貼り、タッチして進むことで、ももを上げて飛び越える。

活動例
「短距離走・リレー」
○走る距離やルールを定めて競走する。
「長距離走」
○ミニ駅伝 ○10分間走
「小型ハードル走(障害物走)」
○ミニハードル
「跳ぶ運動」
○ゴム跳び ○走り幅跳び

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能		判定
			調査項目		
高1 段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	陸上競技	「短距離走リレー」		
			スタンディングスタートから、素早く走り始めることができる。		
			50～100m程度の距離を、体を軽く前傾させて全力で走ることができる。		
			リレーで、テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。		
			「長距離走」		
			腕に余分な力を入れずに、リラックスして走ることができる。		
			自己に合ったピッチとストライドで、上下動の少ない動きで走ることができる。		
			ペースを一定にして走ることができる。		
			「ハードル走(障害物走)」		
			40～50m程度のハードル走をすることができる。		
			第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越えることができる。		
			スタートから最後まで、体のバランスをとりながら真っ直ぐ走ることができる。		
			インターバルを3又は5歩で走ることができる。		
			「走り幅跳び」		
			7～9歩程度のリズムカルな助走をすることができる。		
			幅30～40cm程度の踏切りゾーンで力強く踏み切ることができる。		
			かがみ跳びから両足で着地することができる。		
			「走り高跳び」		
			5～7歩程度のリズムカルな助走をすることができる。		
			上体を起こして力強く踏み切ることができる。		
			はさみ跳びで、足から着地することができる。		

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能		判定
			調査項目		
高2 段階	各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	陸上競技	「短距離走リレー」		
			クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができる。		
			100～200m程度の距離を、自己に合ったピッチとストライドで速く走ることができる。		
			リレーで、前走者の位置からスタートするタイミングを合わせることができる。		
			リレーで、バトンを受け渡すタイミングを合わせることができる。		
			「長距離走」		
			1,000～3,000mの距離を、リズムカルに腕を振り、カミのないフォームで軽快に走ることができる。		
			呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走ることができる。		
			自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。		
			「ハードル走」		
			遠くから踏み切り、勢いよくハードルを走り越すことができる。		
			抜き足の膝を折りたんで前に運ぶなどの動作でハードルを越すことができる。		
			インターバルを3又は5歩でリズムカルに走ることができる。		
			「走り幅跳び」		
			自己に適した距離又は歩数の助走をすることができる。		
			踏切線に足を合わせて踏み切ることができる。		
			かがみ跳びなどの空間動作からの流れの中で着地することができる。		
			「走り高跳び」		
			リズムカルな助走から力強い踏み切りに移ることができる。		
			跳躍の頂点とバーの位置が合うように、自己に合った踏切位置で踏み切ることができる。		
			脚と腕のタイミングを合わせて踏み切り、大きなはさみ動作(はさみ跳びでバーを越える際に、振り上げ足と踏み切り足を交互に大きく動かす動作)で跳ぶことができる。		

段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等		判定
		調査項目		
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝える力を養う。	陸上競技	陸上運動について提示された動きなどのポイントと自分や他者の動きを比較して課題を発見している。		
		陸上運動について仲間との関わり合いや健康安全についての課題を発見している。		
		陸上競技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。		
		陸上の基本的な知識や技能を活用して、自己の課題に応じた練習の取り組み方を工夫している。		
		陸上運動について自分やチームの課題について、考えたことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間や教師などに理由を添えて伝えたりしている。		

段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等		判定
		調査項目		
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	陸上競技	陸上運動について目標タイムを達成するペース配分を自己の技能・体力の程度に合わせて設定している。		
		陸上運動についてより速く走ったり高く跳んだりするための練習の仕方について、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考え、選択している。		
		陸上運動について安全に練習する最善の方法を仲間とともに考え、選択している。		
		陸上運動についてこれまで学習した運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適用したり、応用したりしている。		

活動例
「短距離走・リレー」 ○走る距離やルールを定めて競走する。
「長距離走」 ○設定した距離をあらかじめ決めたペースで走る。
「ハードル走(障害物走)」 ○もも上げ運動 ○ハードルリレー
「走り幅跳び」 ○「トントン〇トトントン」などの一定のリズムを声に出しながら踏み切ることができるようにするなどの配慮をする。
「走り高跳び」 ○跳び箱などの台から踏み切る場などで、力強く踏み切って体が浮くことを経験できるようにしたり、一定のリズムを声に出しながら踏み切る。
「短距離走・リレー」 ○走る距離やルールを決めて競争する。
「長距離走」 ○設定した距離をあらかじめ決めたペースで走る。
「ハードル走」 ○ハードル走の距離は50～80m程度、その間にハードルを5～8台程度置くことを目安とする。
「走り幅跳び」 ○「トントン〇トトントン」などの一定のリズムを声に出しながら踏み切ることができるようにするなどの配慮をする。
「走り高跳び」 ○踏切線に足を合わせることを気にせず跳ぶ。 ○助走マークを用いて踏切線に足を合わせるように跳ぶ。

水泳

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
小1 段階	教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	水遊び	「水遊び」	教師と一緒にプールの周りでじょうろを使って遊ぶことができる。	
			教師と一緒に個々の状態に適した浅い深さのプールの中で、遊具を浮かべたり沈めたりして遊ぶことができる。		
			教師と一緒に水をすくったりかけたりするなど遊ぶことができる。		
			教師と一緒に水をすくって体の様々な部分にかけたり、様々な方向に飛ばしたり、友達や教師とかけ合ったりすることができる。		
小2 段階	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	水の中での運動	「水につかっただけの水かけこやまねっこ遊び(膝くらいまでの水中)」	水につかっただけ様々な動物(アヒル、カニ、カエル、ワニなど)の真似をしながら、腰やひざを伸ばした一直線の姿勢になり手を使って歩くことができる。	
			自ら水を頭や顔にかけたり、お互いにかけあったりすることができる。		
			教師の言葉掛けに合わせて、息を止めて顔や頭を水の中に入れて、水の中で目を開けたりすることができる。		
			「簡単なまきまり」		
			プールサイドを走らないことや順番を守ることができる。		
小3 段階	基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようになる。	水の中での運動	「水中ゲーム」	水中でジャンケン、にらめっこ、石拾い、輪くぐりなどができる。	
			「バブリングやポピング」	大きく息を吸ってもぐり、水中で息を止めたり吐いたりすることができる。	
			息を止めてもぐり、口や鼻から少しずつ息を吐きながら水面まで跳び上がって息をまとめて吐いた後、空中ですぐに吸ってまたもぐることができる。		
			頭の上に手を挙げながら(膝を曲げて)もぐり、手をさげながら(膝を伸ばして)跳び上がる動きを繰り返すことができる。		
			「ばた足やかえる足」	壁や補助具につかまり、ももの付け根からのばた足や足の裏で水を押すかえる足をすることができる。	
中1 段階	各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようになる。	水泳運動	「くらげ浮き、伏し浮き、大の字浮きなど深く遊び」	壁や補助具につかまったり、友達に支えてもらったりして深くすることができる。	
			補助具や友達につかまり、体を伸ばした姿勢にして浮いて進むことができる。		
			息を吸って止め、全身の力を抜いて深くすることができる。		
			「け伸び」	プールの底を両足で蹴り、体を一直線に伸ばした姿勢で進んだり、友達の下をくぐり抜いたりすることができる。	
			体を縮めた状態になってプールの壁に両足を揃えてから、力強く両足で蹴り出した勢いで、頭を引いて腕を揃えて体を一直線に伸ばした姿勢で進むことができる。		
中2 段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な技能を身に付けるようになる。	水泳運動	「呼吸をしながらの泳ぎ」	補助具(ビート板)を使って浮き、呼吸をしながら手や足を動かして泳ぐことができる。	
			補助具(ビート板)を使わずに、頭の上から腕を伸ばした姿勢で、ばた足泳ぎやかえる足泳ぎなど、手や足をバランスよく動かし、呼吸をしながら進むことができる。		
			「補助具を使ったクロールや平泳ぎのストローク」	補助具を使って、手を左右交互に前に出し水をかくクロールのストロークをすることができる。	
			補助具を使って、手の平を下向きにそろえ両手を前方に伸ばし水をかく平泳ぎのストロークをすることができる。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小1 段階	体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	水遊び	水の中で感じた楽しさや心地よさを一緒に活動している教師に、表情や身振りアイコンタクトなどで表現している。		
			水の中で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	水遊びをする中で、教師に言葉やジェスチャーなどで「もう一度」などと要求している。	
小2 段階	基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	水の中での運動	水の中で、自然に体を動かしている。		
			水の中で感じた楽しさや心地よく感じたことを、言葉や表情、ジェスチャーなどで、教師に知らせたり、友達に知らせたりしている。		
			水の中での基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。		
			「疲れた」や「寒い」などの健康にかかわることを、言葉や表情ジェスチャーなどで教師に伝えている。		
小3 段階	基本的な運動の楽しさや健康な生活の仕方について工夫することや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。	水の中での運動	バブリングやポピングするための息継ぎの仕方やばた足やかえる足などの体の使い方を工夫している。		
			水の中での基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	水中ゲームをするための簡単な作戦や工夫を友だちや教師に伝えている。	
				友だちにけがをしたことなどに気付いて教師に伝えている。	
中1 段階	各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	水泳運動	水泳について浮いたり潜ったりするための練習方法を工夫するために、自分が苦手とする動きに気付いている。		
中2 段階	各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	水泳運動	水泳運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。		

活動例
○遊具遊び ○お風呂ごっこ
○動物歩き ○ペアで手をつないで一緒に潜る ○輪になって一緒に潜る
「水中ゲーム」 ○水中ジャンケン ○水中にらめっこ ○石拾い ○輪くぐり 「バブリングやポピング」 ○リーダーの動きを真似して水中に潜る 「ばた足やかえる足」 ○壁や補助具につかまっただけのばた足、カエル足の練習
「くらげ浮き、伏し浮き、大の字浮きなど深く遊び」 ○リーダーの動きをまねて深く(らっこ、大の字)
「け伸び」 ○股下くぐり ○け伸びでどこまで進むかチャンピオンをきめる ○目標物までけ伸びで進んで触る
「様々なもぐり方」 ○プール底の目印を触る ○輪くぐり ○石拾い
「補助具を使った泳ぎ」 ○動物泳ぎ(カエル、ラッコ、アメンボウ)
「呼吸をしながらの泳ぎ」 ○目印に向かって泳ぐ ○「ブクブク、パッ」など呼吸のタイミングを伝えながらの練習
「補助具を使ったクロールや平泳ぎのストローク」 ○立った状態で手だけを動かして歩く ○ビート板などを脚にはさみ、ストロークだけで泳ぐ

段階	段階の目標	指導事項	判定
高1段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	水泳の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに泳法を身に付けること。	「クロール(25m程度)」
			クロールの行い方を理解するとともに、左右の手を入れ替える動きに呼吸を合わせて泳ぐことができる。
			手を左右交互に前方に伸ばして水に入れ、水を大きくかくことができる。
			乗らなく足を交互に曲げたり伸ばしたりして、リズミカルなばた足をする事ができる。
			肩のローリングを用い、体を左右に傾けながら顔を横に上げて呼吸をすることができる。
			「ゆったりとしたクロール」
			1ストロークで進む距離が伸びるように、頭の上で両手を揃えた姿勢で、片手ずつ大きく水をかくことができる。
			1ストロークで進む距離が伸びるように、ゆっくりと動かすばた足をする事ができる。
			呼吸する側の手をかく動きに合わせて、呼吸をすることができる。
			「平泳ぎ(25m程度)」
			平泳ぎの行い方を理解するとともに、手の動きに合わせて呼吸し、キックの後は息を止めてしばらく伸びて、続けて長く泳ぐことができる。
			両手を前方に伸ばし、ひじを曲げながら円を描くように左右に開き、水をかくことができる。
			足の親指を外側に開いて左右の足の裏や脚の内側で水を挟み出すとともに、キックの後に伸びの姿勢を保つことができる。
			手を左右に開き水をかきながら、顔を前に上げ呼吸をすることができる。
			伸びた姿勢から顔を前方にゆっくりと起こしながら手をかきはじめ、肘を曲げながら顔を上げ呼吸した後、キックをした勢いを利用して伸びることができる。
「ゆったりとした平泳ぎ」			
1ストロークで進む距離が伸びるように、キックの後に顎を引いた伏し浮きの姿勢を保つことができる。			
キックの勢いをしっかりと利用するようにゆっくりと手をかくことができる。			

段階	段階の目標	指導事項	判定
高2段階	各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた泳法を身に付けるようにする。	水泳の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた泳法を身に付けること。	「クロール(25m～50m)」
			一定のリズムで強いキックを打つことができる。
			水中で肘を曲げて胸全体で水をキャッチし、S字やI字を描くようにして水をかくことができる。
			ブルとキック、ローリングの動作に合わせて横向きで呼吸をすることができる。
			「平泳ぎ(25m～100m)」
			蹴り終わりで長く伸びるキックをすることができる。
			肩より前で、両手で逆ハート型を描くように水をかくことができる。
			ブルのかき終わりに合わせて顔を水面上に出して息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせて伸び(グライド)をとり進むことができる。
			「背泳ぎ(25m～50m)」
			両手を頭上で組んで、腰が「く」の字に曲がらないように背中を伸ばし、水平に浮いてキックをすることができる。
			水中では、肘が肩の横で60～90度程度曲がるようにしてかくことができる。
			水面上の腕は、手と肘を高く伸ばした直線的な動きをすることができる。
			呼吸は、ブルとキックの動作に合わせて行うことができる。
			「バタフライ(25m～50m)」
			気をつけの姿勢やビート板を用いて、ドルフィンキックをすることができる。
両手を前方に伸ばした状態から、鍵穴(キーホール)の形を描くように水をかくことができる。			
手の入水時とかき終わりのときに、それぞれキックをすることができる。			
ブルのかき終わりと同時にキックを打つタイミングで、顔を水面上に出して呼吸をすることができる。			
「スタート」			
クロール、平泳ぎ、バタフライでは、水中で両足あるいは左右どちらかの足をプールの壁につけた姿勢から、スタートの合図と同時に顔を水中に沈め、抵抗の少ない流線型の姿勢をとって壁を蹴り泳ぎだすことができる。			
背泳ぎでは、両手でプールの縁やスターティンググリップをつかんだ姿勢から、スタートの合図と同時に両手を前方に伸ばし、抵抗の少ない仰向けの姿勢をとって壁を蹴り泳ぎだすことができる。			
「ターン」			
クロールと背泳ぎでは、片手でプールの壁にタッチし、膝を抱えるようにして体を反転し蹴りだすことができる。			
平泳ぎとバタフライでは、両手で同時に壁にタッチし、膝を抱えるようにして体を反転し蹴りだすことができる。			

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方法を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝える力。	水泳についての自他の課題を発見し、その解決のための方法を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	水泳について提示された動きなどのポイントと自分の泳ぎ方を比較して課題を発見している。	
		水泳の基本的な知識や技能を活用して、自己の課題に応じた練習の取り組み方を工夫している。	
		泳ぎについての自分の課題について、考えたことを、言葉や文章及び動作などで表したり、友達や教師などに理由を添えて伝えたりしている。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力。	水泳についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。	水泳について、よりよい泳ぎ方やその練習の仕方について、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考え、選択している。	
		水泳について、安全に泳ぐための最善の方法を仲間とともに考え、選択している。	

活動例
「クロール(25m程度)」
○徐々に泳ぐ距離を伸ばす ○リレー ○インターバルでの練習
「ゆったりとしたクロール」
○ストロークを少ない回数で泳ぐ
「平泳ぎ(25m程度)」
○徐々に泳ぐ距離を伸ばす ○リレー ○インターバルでの練習
「ゆったりとした平泳ぎ」
○ストロークを少ない回数で泳ぐ

活動例
「クロール(25m～50m)」
○徐々に泳ぐ距離を伸ばす ○リレー ○インターバルでの練習
「平泳ぎ(25m～100m)」
○徐々に泳ぐ距離を伸ばす ○リレー ○インターバルでの練習
「背泳ぎ(25m～50m)」
○キックの練習 ○ストロークの練習 ○徐々に泳ぐ距離を伸ばす ○リレー ○インターバルでの練習
「バタフライ(25m～50m)」
○キックの練習 ○ストロークの練習 ○徐々に泳ぐ距離を伸ばす ○リレー ○インターバルでの練習
「スタート」
○姿勢の練習 ○線を越えてジャンプ ○輪くぐりの練習
「ターン」
○水中で前回り ○壁の近くで前回り ○コーンに沿って折り返して泳ぐ

球技

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
小1 段階	教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	教師と一緒に、ボールを使って楽しく体を動かすこと。	教師と一緒にボールを転がすことができる。		
			教師と一緒にボールを投げるができる。		
			浮いている風船に触れようとするができる。		
			転がってくるボールを体や手、足を使って止めることができる。		
			ボールを転がす、投げる、蹴るなどして、的に当てることができる。		

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定		
小2 段階	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすること。	「ボールを使った基本的な運動」				
			つく、転がす、投げる、当てる、捕る、打つ、蹴る、止めるなどの簡単なボール操作をすることができる。				
			教師や友達にボールを転がす、投げる、教師や友達が転がす、投げる、止める、捕るなど基本的なボール操作をすることができる。				
			教師や友達とボールの蹴り合いをすることができる。				
			「ボールを使ったゲーム」				
			ねらったところにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったり的に当てたり得点したりすることができる。				
			教師や友達にボールを手渡ししたり投げたりしてゴールにボールを運ぶことができる。				
			「友だちを追いかけたり逃げたりするゲーム」				
			教師や友達など逃げる相手を追いかけたりタッチすることができる。				
			鬼にタッチされないように、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりすることができる。				
教師や友達と手をつないで鬼にタッチされないように走ったり、身をかわしたりすることができる。							

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定		
小3 段階	基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようになる。	ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。	「ボールを使った基本的な運動」				
			友達と一緒にボールを投げる、捕るの動きでキャッチボールをすることができる。				
			友達と一緒にボールを蹴ったり、足で止めたりすることができる。				
			止まっているボールをゴールに向かってシュートをすることができる。				
			止まっているボールを手で打つことができる。				
			「ボールを使ったゲーム」				
			ねらったところボールを転がしたり投げたりすることができる。(基本的なボール操作)				
			ねらったところにボールを蹴ることができる。(基本的なボール操作)				
			一定の区域内で、相手が転がしたボールに当たらないように避けたり、逃げたりすることができる。(ボールを持たないときの動き)				
			緩やかなボールを手で打つことができる。(基本的なボール操作)				
			飛んだり、転がったりしてきたボールを捕ったり、止めたりすることができる。(基本的なボール操作)				
			ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ることができる。(ボールを持たないときの動き)				
			「友達を追いかけたり逃げたりするゲーム」				
			逃げる相手を追いかけ、しっぽ(マーク)を捕ったりすることができる。(ボールを持たないときの動き)				
			相手にしっぽ(マーク)を捕られないように、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりすることができる。(ボールを持たないときの動き)				

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定		
中1 段階	各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようになる。	球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	ゴール型				
			ボールを蹴って、味方にパスを出すことができる。(基本的なボール操作)				
			ゴールを決めようと、ボールを蹴ってシュートをすることができる。(基本的なボール操作)				
			ボールを蹴って、ドリブルをすることができる。				
			相手のいないところを見つけることができる。(ボールを持たないときの動き)				
			ネット型				
			ごく軽量のボールを片手もしくは両手ではじくことができる。(基本的なボール操作)				
			ボールを持った相手のいる場所を見ることができる。(ボールを持たないときの動き)				
			相手コートから飛んできたボールを自陣の味方にパスをすることができる。(基本的なボール操作)				
			相手コートから飛んできたボールを相手コートに返球することができる。(基本的なボール操作)				
			ベースボール型				
			止まっているボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりすることができる。(基本的なボール操作)				

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小1 段階	体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	ボールを使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	ボールを使って感じた楽しさや心地よさを一緒に活動している教師に、表情や身振り、アイコンタクトなどで表現している。		
			ボール遊びの中で教師に言葉やジェスチャーなどで「もう一度」などと要求している。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小2 段階	基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	ボールや風船を使って自然に体を動かしている。		
			ボールを使って感じた楽しさや心地よく感じたことを、言葉や表情、ジェスチャーなどで、教師に知らせたり、友達に知らせたりしている。		
			ボールを使った基本的な運動の中で手や足が痛いなどを教師に伝えている。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小3 段階	基本的な運動の楽しみ方や健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。	ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。	ボールゲームのための練習の仕方を工夫している。		
			ボールゲーム中における動き方を工夫している。		
			ボールゲームでの簡単な作戦を考えて友達に伝えている。		
			友達がケガをしたときに伝えている。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
中1 段階	各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	球技で自分が苦手とする動きの練習方法を工夫して行っている。		

活動例
○いろいろなボールを転がす、投げる、蹴る、捕るなどの遊び
○ボールを転がしたり、投げたりしながら行う当て遊び

活動例
「ボールを使った基本的な運動」
○大小、弾む弾まないなど、いろいろなボールで「つく、かき、投げる、当てる、捕る」の簡単なボール操作をする運動
○いろいろなボールを投げたり、蹴ったりする運動
○いろいろなボールを蹴ったり、止めたりする運動や蹴り合い
「ボールを使ったゲーム」
○ものやマークなどの的に向かってボールを投げたり蹴ったりする「的当て」のゲーム
○ボールを教師や友達に手渡ししたり投げたりするボール送りゲーム
「友だちを追いかけたり逃げたりするゲーム」
○一人鬼
○手つなぎ鬼
○子増やし鬼

活動例
「ボールを使った基本的な運動」
○友達とのキャッチボール
○ボールを打つ
○友達と蹴ったり、止めたりするパスやシュート
○ボールを手や足でドリブル
「ボールを使ったゲーム」
○的当てゲームを発展させたシュートゲーム
○ボールを転がしたり、投げたりする円形ドッジボール
○攻めがボールを手で打ったり蹴ったりして行うベースボール型ゲーム
「友達を追いかけたり逃げたりするゲーム」
○しっぽ取りゲーム
○タグラグビー

活動例
ゴール型
○ラインサッカー、ミニサッカーなどを基にした簡易化されたゲーム
ネット型
○ソフトバレーボールを基にした簡易化されたゲーム
ベースボール型
○攻める側がボールを蹴って行う簡易化されたゲーム

段階	段階の目標	指導事項	判定			
中2段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方や体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	球技の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	ゴール型			
			ボールを持ったときにゴールに体を向けることができる。(ボール操作)			
			ボール保持者と自分の間に守る者がいないように移動することができる。(ボールを持たないときの動き)			
			ゲームの中で、味方にパスをすることができる。			
			ゲームの流れの中で、シュートをすることができる。			
			ゴールに向かってドリブルをすることができる。			
			空いている場所に動くことができる。(ボールを持たないときの動き)			
			ネット型			
			相手コートから飛んできたシャトルやボールを、ラケットを使用して打つことができる。(ボール操作)			
			ボールの方向に体を向けることができる。(ボールを持たないときの動き)			
			ボールの落下点に移動したりすることができる。(ボールを持たないときの動き)			
			ボールを操作しやすい位置に移動することができる。(ボールを持たないときの動き)			
			ベースボール型			
			バットを使用してボールを打ったり、静止したボールを打ったりすることができる。(基本的なボール操作)			
			味方がボールを打ったらベースに向かって全力で走り、かけ抜けることができる。(ボールを持たないときの動き)			
			キャッチをするために、向かってくるボールの方向に移動することができる。(ボールを持たないときの動き)			
			高1段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	球技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	ゴール型
			近くにいるフリーの味方にパスを出すことができる。			
相手に捕られない位置でドリブルをすることができる。						
ボール保持者と自己の間に守備者が入らないようにして攻撃に参加することができる。						
ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。						
ネット型						
自陣のコートの中央付近から相手コートに向けサーブを打ち入れることができる。						
ボールやシャトルの方向に体を向けることができる。						
片手、両手もしくは用具を使って、相手コートにボールやシャトルを打ち返すことができる。						
ベースボール型						
止まったボールや易しく投げられたボールをバットでフェアグラウンド内に打つことができる。						
打球方向に移動し、捕球することができる。						
捕球する相手に向かって、投げるることができる。						
塁間を全力で走塁することができる。						
守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができる。						

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見つけ、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	球技についての自分やチームの課題を見つけ、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	簡易化されたゲームでチームとして守りの弱いところを見付けている。	
		チームの課題についてグループで意見を出し合ったり考えたり、改善方法をグループでまとめたりしている。	

活動例
ゴール型 ○ボートボール、バスケットボール、サッカーを基にした簡易化されたゲーム
ネット型 ○バドミントンや卓球を基にした簡易化されたゲーム
ベースボール型 ○フットベースボールを基にした簡易化されたゲーム ○ティーボールを基にした簡易化されたゲーム
ゴール型 ○ラインサッカー ○バスケットボール、サッカーなどを基にした簡易化されたゲーム(攻守が入り交じって行うゴール型)
ネット型 ○ゴロ卓球 ○ソフトバレーボール、バドミントン、卓球などを基にした簡易化されたゲーム
ベースボール型 ○ワンベースボール ○フットベースボール、ティーボール、ソフトボールなどを基にした簡易化されたゲーム

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝える力を養う。	球技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	球技について、提示された動きなどのポイントと自分や他者の動きを比較して課題を発見している。	
		球技について、仲間との関わり合いや健康安全についての課題を発見している。	
		球技の基本的な知識や技能を活用して、自己の課題に応じた練習やゲームの取り組み方を工夫している。	
		球技について、自分やチームの課題について、考えたことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間や教師などに理由を添えて伝えたりしている。	

段階	段階の目標	指導事項	判定		
高2段階	各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	球技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、ゲームを行うこと。			
				ゴール型	
				ゴール方向に守備者がいない位置でシュートすることができる。	
				マークされていない味方にパスを出すことができる。	
				得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。	
				パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。	
				ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	
				パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。	
				ボールを持っている相手をマークすることができる。	
				ネット型	
				サービスではボールやラケットの中心付近で捉えることができる。	
				ボールを返す方向にラケット面を向けて打つことができる。	
				味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。	
				相手側のコートに空いた場所にボールを返すことができる。	
				テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。	
				相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。	
				プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻るることができる。	
				ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対すること。	
				ベースボール型	
				ティーボールではホームベースの真横に立ち、ソフトボールでは投球の方向と平行に立ち、肩越しにバットを構えることができる。	
				地面と水平になるようにバットを振り抜くことができる。	
				スピードを落とさずに、タイミングを合わせて壘を駆け抜けることができる。	
				打球の状況によって壘を進んだり戻ったりすることができる。	
				ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ることができる。	
				投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げるができる。	
				守備位置から塁上へ移動して、味方からの送球を受けることができる。	
				決められた守備位置に繰り返し立ち、準備姿勢をとることができる。	
				各ポジションの役割に応じて、ベースカパーやバックアップの基本的な動きをすることができる。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	球技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。	球技について、ゲームの行い方や練習の仕方、仲間との関わり方を、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考え、選択している。	
		球技について、安全に練習やゲームをする最善の方法を仲間とともに考え、選択している。	
		球技について、これまで学習した運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適用したり、応用したりしている。	

活動例
<p>ゴール型</p> <p>○バスケットボール、サッカー、ハンドボールなどのゲーム(攻守が入り交じって行うゴール型)</p>
<p>ネット型</p> <p>○バレーボール、バドミントン、卓球などのゲーム</p>
<p>ベースボール型</p> <p>○ティーボール、ソフトボールなどを基にしたゲーム</p>

武道

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
中 1 段階	各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	武道の楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	「基本動作」		
			柔道		
			相手の動きに応じやすい自然体で組むことができる。		
			横受け身では、体を横に向け下側の脚を前方に、上側の脚を後方にして、両脚と一方の腕全体で畳を強くたくことができる。		
			剣道		
			構えでは、相手の動きに応じて自然体で中段を構えることができる。		
			体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足をすることができる。		
			体さばきでは、相手の動きに応じて送り足をすることができる。		
			中段の構えから体さばきを使って、面の部位を打つことができる。		
			中段の構えから体さばきを使って、面の部位を受けることができる。		
			中段の構えから体さばきを使って、胴(右)の部位を打つことができる。		
			中段の構えから体さばきを使って、胴(右)の部位を受けることができる。		
			相撲		
			蹲踞姿勢で、正しい姿勢や形をとることができる。		
			塵浄水で、正しい姿勢や形をとることができる。		
			四股では、重心を低くした動きをすることができる。		
			腰割りでは、重心を低くした動きをすることができる。		
			中腰の構えでは、重心を低くした姿勢をとることができる。		
			運び足では、低い重心を維持して、すり足で移動することができる。		
			「基本となる技」		
			柔道		
			投げ技である膝車は、取(技をかける人)が膝車をかけて投げるができる。		
			投げ技である膝車は、取(技をかける人)が膝車をかけて、受(技を受ける人)が受け身をとることができる。		
			固め技であるけさ固めは、取はけさ固めで相手を抑えることができる。		
			固め技であるけさ固めは、受は抑えられた状態から、相手を体側に返すことができる。		
			剣道		
			二段の技で、最初の面打ちに相手が反応したとき、隙ができた胴を打つことができる。(面)		
			二段の技で、最初の面打ちに相手が反応したとき、隙ができた胴を打つことができる。(胴)		
			相撲		
			相手の両腕の下を押すことができる。(押し)		
相手のまわしを取って引きつけて寄ることができる。(寄り)					

段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	姿勢や構え、足の使い方などの練習方法を工夫するために、自分が苦手とする動きに気付いている。		

活動例
○二人一組になり、まねをして動く鏡を見ながら姿勢を確認する

段階	段階の目標	指導事項	判定	
中 2 段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方や体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	武道の楽しさや喜びに触れ、その行い方や伝統的な考え方を理解し、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。		
			「基本動作」	
			柔道	
			進退動作では、相手の動きに応じたすり足で体の移動をすることができる。	
			進退動作では、相手の動きに応じた歩み足で、体の移動をすることができる。	
			進退動作では、相手の動きに応じた継ぎ足で、体の移動をすることができる。	
			後ろ受け身で、あごを引くことができる。	
			後ろ受け身で、頭を上げることができる。	
			後ろ受け身では、あごを引き、頭を上げ、両方の腕全体で畳を強くたたかすることができる。	
			前回り受け身では、前方へ体を回転させ、背中側面が畳に着く瞬間に、片方の腕と両脚で畳を強くたたかすることができる。	
			剣道	
			基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使うことができる。	
			基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、小手(右)の部位を打ったり受けたりすることができる。	
			相撲	
			仕切りからの立ち合いでは、相手と動きを合わせることができる。	
			相手の動きや技に応じて受け身をとることができる。	
			「基本となる技」	
			柔道	
			投げ技である支え釣り込み足は、取(技をかける人)が膝支え釣り込み足をかけて投げることができる。	
			投げ技である支え釣り込み足は、受(技を受ける人)が受け身をとることができる。	
			固め技である横四方固めは、取は横四方固めで相手を抑えることができる。	
			固め技である横四方固めは、受は抑えられた状態から、相手を頭方向に返すことができる。	
			剣道	
			二段の技は、最初の小手打ちに相手が反応したとき、隙ができた面を打つことができる。(小手)	
			二段の技は、最初の小手打ちに相手が反応したとき、隙ができた面を打つことができる。(面)	
			引き技は、相手が接近した状態にあるとき、隙ができた胴を退きながら打つことができる。(引き胴)	
			相撲	
			押しから体を開き相手の攻めの方向にいなすことができる。(いなし)	
			寄りから体を開き側方に出すように投げること。(出し投げ)	
			寄りから体を開き側方に出すように投げること、これに対して受け身をとることができる。(受け身)	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例
各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	武道についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	姿勢や構え、足の使い方などの課題について、自分やグループの問題となる点を客観的に見付けている。		<ul style="list-style-type: none"> ○二人一組になりまねをして動く ○鏡を見ながら姿勢を確認する ○DVDによる、実技見学

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高1段階 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	武道 武道の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	「基本動作」	
		柔道	
		崩しでは、相手の動きに応じて相手の体勢を不安定にし、技をかけやすい状態をつくることができる。	
		相手の投げ技に応じて横受け身をとることができる。	
		相手の投げ技に応じて後ろ受け身をとることができる。	
		相手の投げ技に応じて前回り受け身をとることができる。	
		剣道	
		基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面を打つことができる。	
		基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面を受けることができる。	
		基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、胴(右)を打つことができる。	
		基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、胴(右)を受けることができる。	
		基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、小手(右)を打つことができる。	
		基本の打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、小手(右)を受けることができる。	
		相撲	
		踏蹴姿勢では、正しく安定した姿勢や形をとることができる。	
		塵浄水では、正しく安定した姿勢や形をとることができる。	
		四股で、重心を低くして安定した動きをすることができる。	
		腰割りで、重心を低くして安定した動きをすることができる。	
		中腰の構えでは、重心を低くして安定した姿勢をとることができる。	
		運び足では、低い重心を維持し安定して、すり足で移動することができる。	
		仕切りからの立ち合いでは、相手と動きを合わせて一連の動作で行うことができる。	
		相手の動きや技に応じ、安定して受け身を取ることができる。	
		「基本となる技」	
		柔道	
		投げ技である大外刈りは、取(技をかける人)が大外刈りをかけて投げることができる。	
		投げ技である大外刈りは、受(技を受ける人)は受け身をとることができる。	
		固め技である上四方固めは、取は上四方固めで相手を抑えることができる。	
		固め技である上四方固めは、受は抑えられた状態から、相手を頭方向に返すことができる。	
		剣道	
		相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つことができる。(引き面)	
		相手が面を打つとき、体をかわして隙ができた胴を打つことができる。(面抜き胴)	
		相撲	
		相手の両脇の下や前まわしを取って押すことができる。(押し)	
		上記の動きに対し、体を開き、相手の攻めの方向にいなすことができる。(いなし)	
		相手のまわしを取って引き付けることができる。(寄り)	
上記の動きに対し、相手の差し手を逆に下手に差し替えることができる。(巻き返し)			
寄りから下手で投げることができる。(下手投げ)			
上記の動きに対し、受け身を取ることができる。			

※相撲は高12統一

段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例
各種の運動や健康安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方法を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝える力を養う。	武道 武道についての自他の課題を発見し、その解決のための方法を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	武道について、提示された動きなどのポイントと自分や他者の動きを比較して課題を発見している。		○二人一組になりまねをして動く ○鏡を見ながら姿勢を確認する ○DVDによる、実技見学
		武道について、仲間との関わり合いや健康安全についての課題を発見している。		
		武道についての基本的な知識や技能を活用して、自己の課題に応じた練習の取り組み方を工夫している。		
		武道について、自分やチームの課題について、考えたことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間や教師などに理由を添えて伝えたりしている。		

段階	段階の目標	指導事項	判定	
高2段階	各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	武道の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きの変化に応じた攻防を展開すること。	「基本動作」	
			柔道	
			姿勢と組み方では、相手の動きの変化に応じやすい自然体で組むことができる。	
			崩しでは、相手の動きの変化に応じて相手の体勢を不安定にし、技をかけやすい状態をつくることができる。	
			進退動作では、相手の動きの変化に応じたり足で体の移動をすることができる。	
			進退動作では、相手の動きの変化に応じた歩み足で、体の移動をすることができる。	
			進退動作では、相手の動きの変化に応じた継ぎ足で、体の移動をすることができる。	
			剣道	
			打突の仕方と受け方では、体さばきや竹刀操作を用いて打つことができる。	
			打突の仕方と受け方では、体さばきや竹刀操作を用いて、応じ技へ発展するよう受けることができる。	
			「基本となる技」	
			柔道	
			投げ技である体落としては、取(技をかける人)が体落としをかけて投げることができる。	
			投げ技である体落としては、受(技を受ける人)は受け身をとることができる。	
			投げ技である体落としては、取(技をかける人)が体落としをかけて投げることができる。	
			投げ技である体落としては、受(技を受ける人)は受け身をとることができる。	
			投げ技である大腰は、取(技をかける人)が大腰をかけて投げることができる。	
			投げ技である大腰は、取(技をかける人)が大腰をかけて、受(技を受ける人)は受け身をとることができる。	
			取は相手の動きの変化に応じながら、けさ固め、横四方固め、上四方固めの連絡を行うことができる。	
			受はけさ固め、横四方固め、上四方固めで抑えられた状態から、相手の動きの変化に応じながら、相手を体側や頭方向に返すことによって逃げるができる。	
			相手がうつぶせのとき、相手を仰向けに返して抑え込みに入ることができる。	
			「剣道」	
			相手が小手を打つとき、体をかわして、面を打つことができる。(小手抜き面)	
			相手が小手を打つとき、竹刀を頭上に振りかぶって面を打つことができる。(小手抜き面)	
最初の面打ちに相手に対応したとき、隙がでた面を打つことができる。(面一面)				

段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	武道についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。	武道について、より投げ方や打ち方、その練習の仕方について、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考え、選択している。		OR二人一組になりまねをして動く O鏡を見ながら姿勢を確認する ODVDIによる、実技見学
		武道について、よりきれいに投げたり、正確に面を打ったりするための練習の仕方について、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考え、選択している。		
		武道について、安全に練習する最善の方法を仲間とともに考え、選択している。		
		武道について、これまで学習した運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適用したり、応用したり		

ダンス

知識及び技能			
段階	段階の目標	指導事項	調査項目
小1 段階	教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	表現遊び	教師と一緒に音楽を感じながら、自由に体を動かすことができる。
			教師と一緒に、音楽の流れている場所で楽しく体を動かすこと。
			教師と一緒に音楽を感じながら、はねたり、跳んだりすることができる。
段階	段階の目標	指導事項	調査項目
小2 段階	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	表現運動	「題材と動き」
			身近な動物や車、飛行機などの乗り物等の真似することができる。
			「リズムと動き」
			弾む、回る、ねじるなどの動きで自由に踊ることができる。
音楽やリズムに合わせて歩く、走る、弾む、回る、ねじるなどの運動をすることができる。			
段階	段階の目標	指導事項	調査項目
小3 段階	基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や体の変化について知り、健康な生活ができるようになる。	表現運動	「題材と動き」
			衣服が洗濯で洗われたり、干されたりする様子を捉え、全身の動きで表現することができる。
			大空を自由に飛び回る様子や、海の中を深く潜ったり泳いだり波に揺られたりする様子、風に吹かれているような動きをしながら舞う様子などを自由に表現することができる。
			「リズムと動き」
			リズムに乗って、スキップなどで弾む動きを中心に、ねじる、回る、移動するなど動きを繰り返して踊ることができる。
			友達と手をつないだり、友達の真似をしたりして踊ることができる。
友達と向かい合って手をつなぎ、スキップしながら回ったり、ねじったり、手を叩き合ったりして踊ることができる。			
段階	段階の目標	指導事項	調査項目
中1 段階	各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達、連やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	ダンス	「音楽やリズムと動き」
			軽快なリズムに乗って、その場で弾む、スキップで移動するなど全身で即興的に踊ることができる。
			動きにアクセントを付けたり、ねじる、回るなどの動きを組み合わせて踊ることができる。
			リズムの特徴をとらえ、体の各部分でリズムをとったり、体幹部(へそ)を中心にリズムに乗ったりして全身で踊ることができる。
スキップやランニングなどの簡単なステップで、音楽に合わせてみんなで踊ることができる。			

思考力、判断力、表現力等			
段階	段階の目標	指導事項	調査項目
小1 段階	体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	表現遊び	教師と一緒に音楽を聴きながら、感じた楽しさや心地よさを一緒に活動している教師に、表情や身振りアイコンタクトなどで表現している。
			音楽の流れている場所で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。
教師と一緒に音楽を聞いて、言葉やジェスチャーなどで「もう一度」などと要求している。			

段階	段階の目標	指導事項	調査項目
小2 段階	基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	表現運動	表現運動の中で、自然に体を動かしている。
			表現運動の中で、楽しさや心地よく感じたことを、言葉や表情、ジェスチャーなどで、教師や友達に知らせている。
			基本的な表現運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。
			疲れや手足の痛みなどを教師や友だちに伝えている。

段階	段階の目標	指導事項	調査項目
小3 段階	基本的な運動の楽しさや健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。	表現運動	表現したい物に合わせて動き方を工夫している。
			表現運動のための練習の仕方を工夫している。
			基本的な表現運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
			表現運動での簡単な動きを考えて友達に伝えている。
体を痛がっている友だちがいたときに、教師に伝えている			

段階	段階の目標	指導事項	調査項目
中1 段階	各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	ダンス	ダンスをするための練習方法を工夫するために、自分が苦手とする動きに気付いている。
			ダンスについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。

活動例
○童謡などに合わせて、歩いたり、スキップしたり、手拍子をしたりする。
「題材と動き」
○鳥、昆虫、恐竜、動物園の動物、飛行機、遊園地の乗り物、おもちゃなど、特徴が捉え易い動きを多く含む題材 ・動物にへんしん ・忍者に変身
「リズムと動き」
○軽快なリズムの曲や児童が日常的に親しんでいる曲 ・弾む、回る、ねじるなどの動きで自由に踊ること ・音楽やリズムに合わせて歩く、走る、弾む、回る、ねじるなどの運動をすること ・ハブリカ
「題材と動き」
○家事やスポーツなど身近な生活の中から特徴が捉え易く多様な感じの動きを含む題材 ・掃除、料理などの家事の様子やスポーツの動き ○空、海、風など想像が広がる題材 ・○探検隊
「リズムと動き」
○ロックやサンバなど弾んで踊れる軽快なリズムの曲
活動例
「音楽やリズムと動き」
○日常生活でよく聞く歌や軽快なロックやサンバのテンポのリズムの曲 ○ジェンカ(フィンランド)、キンダーポルカ(ドイツ)、タタロチカ(ロシア)など、軽快なリズムと易いステップの繰り返しで構成される簡単なフォークダンス

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中2段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方や体の発育・発達やけがの予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	ダンスの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、表現したり踊ったりすること。	「音楽やリズムと動き」	
			弾む動きに合わせる、回るなどの動きを入れて変化を付けたり、素早い動きやストップなどでリズムの変化を付けたりして続けて踊ることができる。	
			日本の民謡に共通する特徴やそれぞれの踊り方の特徴を捉え、構成された基本的な踊り方を身に付けて踊ることができる。	
			軽快なリズムの踊りでは、軽快な足さばきや手振りで踊ることができる。	
			力強い踊りでは、低く踏みしめるような足取りや腰の動きで踊ることができる。	
			フォークダンスの特徴を捉え、構成された基本的な踊り方を身に付けて踊ることができる。	
			みんなで手をつなぎ、かけ声をかけて力強くステップを踏みながら移動して踊ることができる。	
			パートナーと組んで軽快なステップで動きを合わせたり、パートナーチェンジをスムーズに行ったりしながら踊ることができる。	
			緩やかな挨拶の部分と軽快なスキップやアーチくりなどの変化を付けて、パートナーや全体でスムーズに隊形移動しながら踊ることができる。	

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高1段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	ダンスの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、技能を身に付け、表現や踊りを通じた交流をすること。	「テーマやリズムと動き」	
			○創作ダンス	
			身近な生活や日常動作などのテーマから連想を広げてイメージを出したり、思いついた動きで踊ったり、仲間の動きをまねたりすることができる。	
			動きを誇張したり、繰り返したり、変化を付けたりして、ひと流れの動きで表現することができる。	
			○フォークダンス	
			小道具を操作する踊りでは、曲調と手足の動きを一致させて、賑やかな掛け声と歯切れのよい動きで踊ることができる。	
			パートナーチェンジのある踊りでは、なめらかにパートナーチェンジをするともに、軽快なステップで相手と合わせて踊ることができる。	
			○現代的なリズムのダンス	
			自然な弾みやスイングなどの動きで気持ちよく音楽のビートに乗れるように、簡単な繰り返しリズムで踊ることができる。	
			軽快なリズムに乗って弾みながら、揺れる、回る、ステップを踏んで手をたたき、ストップを入れるなどリズムを捉えて自由に踊ったり、相手の動きに合わせて、手をつなぐなど相手と対応しながら踊ることができる。	

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高2段階	各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要となる健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	ダンスの楽しさや喜びを深く味わい、その行い方の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、表現や踊りを通じた交流や発表をすること。	「テーマやリズムと動き」	
			○創作ダンス	
			取り組んでみたいテーマや題材や動きなどでグループを組み、思いついた動きを表現すること、仲間の動きをまねること、ひと流れの動きで表現することができる。	
			緩急強弱のある動きや空間の使い方や場面転換などで、変化をつけたりひと流れの動きで表現することができる。	
			○フォークダンス	
			小道具を操作する踊りでは、手に持つ鳴子のリズムに合わせて、沈み込んだり跳びはねたりする躍動的な動きで踊ることができる。	
			労働の作業動作に由来をもつ踊りでは、種まきや福刈りなどの手振りの動きを強調して踊ることができる。	
			ゲーム的な要素が入った踊りでは、グランドチェンなどの行い方を覚えて次々と替わる相手と組み合わせて踊ることができる。	
			軽やかなステップの踊りでは、グレイブハインステップなどをリズムカルに行って踊ることができる。	
			○現代的なリズムのダンス	
簡単なリズムの取り方や動きで、音楽のリズムに同調したり、体幹部を中心としたシンプルに弾む動きをしたりして自由に踊ることができる。				
リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。				

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	ダンスについての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	ダンスでチームとして問題となる点を客観的に弱いところを見つけている。	
		ダンスについてチームの課題についてグループで意見を出し合ったり考えたり、解決策や改善方法をグループでまとめている。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康な生活を守るための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝える力を養う。	ダンスについての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	ダンスについて動きなどのポイントと自分や他者の動きを比較して課題を発見している。	
		ダンスについて仲間との関わり合いや健康安全についての課題を発見している。	
		ダンスの基本的な知識や技能を活用して、自己の課題に応じた練習やゲームの取り組み方を工夫している。	
		ダンスについて自分やチームの課題について、考えたことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間や教師などに理由を添えて	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康・安全な生活を守るための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	ダンスについての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。	ダンスについて表現方法の仕方や練習の仕方、仲間との関わり方を、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考え、選択している。	
		ダンスについて安全に練習をする最善の方法を仲間とともに考え、選択している。	
		ダンスについてこれまで学習した運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適用したり、応用したりしている。	

活動例
「音楽やリズムと動き」
○いろいろな速さの曲調の異なるロックやサンバのリズムの曲 ○日本の民謡 ・ソーラン節 ・八木節 ○外国のフォークダンス ・オクラホマミキサー ・コロブチカ

活動例
「テーマやリズムと動き」
○創作ダンス ○フォークダンス ・オクラホマミキサー ・コロブチカ ・八木節 ・だんべえ踊り ○現代的なリズムのダンス

活動例
「テーマやリズムと動き」
○創作ダンス ○フォークダンス ・オクラホマミキサー ・コロブチカ ・八木節 ・だんべえ踊り ○現代的なリズムのダンス

体育理論

段階	知識及び技能			判定
	段階の目標	指導事項	調査項目	
高1段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	体育理論 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義に気付くこと。	体を動かしたり、健康を維持したりする必要性を理解することができる。	
			競技に応じた力を試したり、記録等を達成したりすることができる。	
			すること、知ること、みること、応援(支援)することなどの多様な関わり方があることを理解することができる。	
			テレビや競技場等での観戦を通して、一体感を味わったり、質の高い動きに感動したりすることができる。	
			運動やスポーツの歴史や記録などを書物やインターネットを通して調べることができる。	
			運動やスポーツには身体が発達や、体力や運動の技能の維持、向上させる効果があることを理解することができる。	
			食生活の改善と関連させることで肥満予防の効果も期待できることを理解することができる。	
			運動の技能は、合理的な練習の積み重ねによって身に付けることができ、技能は体力と関連していることを理解することができる。	
			安全に運動やスポーツを行うための計画を立てることができる。	
			準備体操や整理運動を適切に行うことができる。	
			スポーツの実施中、実施後に適切な休憩や水分補給を行うことができる。	
			スポーツが人々の生活や人生を豊かにするかけがえのない文化になっていることや現代生活の中で重要な役割を果たしていることを理解することができる。	
			個々の好きなことや目的に応じた運動やスポーツの楽しみ方について理解することができる。	
			高2段階	各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。
		ルールやマナーを守り、フェアに競うことができる。		
		世代や機会に応じてルールを工夫することができる。		
		勝敗にかかわらず、健闘を称え合う等の行い方があることを理解することができる。		
		よい動き方を身に付けることができる。		
		合理的な練習の目標や計画を立てることができる。		
		実行した技術や戦術、表現が上手くて良かったことを確認することができる。		
		運動の課題を合理的に解決する学び方があることを理解することができる。		
		技能の程度に応じた戦術や作戦を立てることが有効であることを理解することができる。		
		運動やスポーツ実施中のケガや事故に適切に対応できるように簡単な応急手当の方法を理解することができる。		
		野外での活動では、自然や気象に関する知識をもつことが必要であることを理解することができる。		
		気象の変化を予測できるように事前に情報を集めて計画を立てることができる。		

思考力、判断力、表現力等			
段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝える力を養う。	体育理論 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義について課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	自然と親しんだり、仲間と交流したりしている。	
		運動やスポーツを通して感情を表現している。	
		テレビや競技場等での観戦を通して、一体感を味わったり、質の高い動きに感動したりしている。	
		仲間の学習を応援(支援)している。	
		施設や用具の安全を事前に確認している。	
		共に活動する仲間の安全に配慮している。	

段階の目標	指導事項	調査項目	判定
各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	体育理論 運動やスポーツの多様性、効果と学び方、安全な行い方及び文化としてのスポーツの意義について課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えること。	適切に運動やスポーツを行いことで達成感を得たり、自己の能力に対する自信をもったりしている。	
		適切に運動やスポーツを行いことでストレスを解消したり、リラックスしたりしている。	
		違いに配慮したルールを受け入れたり、仲間と教え合ったり、相手のよいプレーに称賛を送ったりしている。	
		地域の障害者スポーツ大会や運動会、スポーツイベントに参加している。	

活動例
<ul style="list-style-type: none"> ○テレビやインターネット配信を通じた観戦 ○競技場等での観戦 ○食生活の見直し ○記録の測定
<ul style="list-style-type: none"> ○アダブテッドスポーツ ○参加しやすいルールに変える。 ○屋外スポーツ ○アウトドア ○地域の障害者スポーツ ○運動会 ○スポーツイベント ○アスリートとの交流

保健体育 保健

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
小1段階	教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	教師と一緒に、うがいなどの健康な生活に必要な事柄をすること。	「うがい」、「のど」、「せき」といった教師の言葉に触れながら、うがいをしたり、うがいに関心をもったりすることができる。		
小2段階	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようになる。	教師の支援を受けながら、健康な生活に必要な事柄をすること。	遊びのあとに「かお」、「むね」、「せなか」といった言葉に触れながら、汗をぬぐったりすることができる。		
小3段階	基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を身につけるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようになる。	健康や身体の変化について知り、健康な生活に必要な事柄に関する基本的な知識や技能を身に付けること。	発熱や咳、排便の状態などを捉えて、治療や休養が必要な場合に教師に知らせることができる。		
中1段階	各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付けること。	身体測定の結果や性徴を通して体の発育に関心をもち、身体各部の働きを知ることができる。		
中2段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付けること。	けがの防止のために運動の前後に体操をすることができる。		
高1段階	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等を理解するとともに、健康で安全な個人生活を営むための技能を身に付けること。	「けがや疾病の予防」 安全に注意して運動をすることの必要性を理解することができる。 傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの自らできる簡単な応急手当の仕方を知り、実際の生活で行うことができる。 運動後に、汗の処理をしたり、休息をとったりすることができる。 常に身体や周辺を清潔に保つことができる。 年齢や生活環境等に応じて運動を続けることが必要であることが理解することができる。 毎日適切な時間に食事をすることができる。 年齢や運動量等に応じて栄養素のバランスや食事の量などに配慮することを理解することができる。 必要性を理解し、適切な栄養及び睡眠をとることができる。		
高2段階			「心身の機能の発達に関すること」 身体の形態的な発育や性徴に関心をもち、自分の身体の状態を考えたりすることができる。 自分の行動への責任感を理解したり、尊重したりすることができる。 異性を理解しようとして、尊重したりすることができる。 一人ひとりの性に対する考え方や行動が違うことを踏まえ、異性とかかわることができる。 性情報への対処などに関する適切な態度や行動の選択ができる。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小1段階	体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	健康な生活に必要な事柄に気づき、教師に伝えること。	保健室の雰囲気や慣れ、体調が悪いときやけがをしたときに、教師と一緒に保健室へ行くなどしている。		
小2段階	基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	健康な生活に必要な事柄に慣れ、感じたことを他者に伝えること。	身体測定や各健康診断などの場の雰囲気や慣れ、嫌がらずに身体測定や各健康診断を受けている。		
小3段階	基本的な運動の楽しさや健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことを他者に伝える力を養う。	健康な生活に必要な事柄について工夫するとともに、考えたことや気付いたことを他者に伝えること。	自分や友達のけがや体調の変化を教師等に告げている。		
中1段階	各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	自分の健康・安全についての課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	けがや病気の際に、教師や友達に伝え、消毒薬や体温計を適切に使ったり、薬を指示に応じて服用したりしている。		
中2段階	各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	自分やグループの健康安全についての課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	一日の生活リズムに合わせて運動、食事、休養、睡眠をとっている。		
高1段階	各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方法を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝える力を養う。	健康・安全に関わる自他の課題を発見し、その解決のための方法を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えること。	部屋の明るさの調節や換気を行っている。		
高2段階			けがや疾病の予防手当における自分や友達の課題を発見している。		
			自分や友達のけがや疾病の予防に関して思考し、判断したことを他者に表現している。		
			体の発育や性に関することにおいて、自分の課題を発見している。		
			自分や友達の体の発育や性に関して思考し、判断したことを他者に表現している。		

活動例
○きれいに洗おう ○早寝早起きをしよう
○きれいに洗おう ○早寝早起きをしよう ○身長の伸びを知ろう
○自分の体について知ろう ○むし歯を防ごう
○季節に合わせて着脱しよう ○思春期の心と体の変化を知ろう
○季節に合わせて着脱しよう ○思春期の心と体の変化を知ろう ○けがの手当を知ろう ○1日の生活リズムを整えよう
「けがや疾病の予防」 ○けがの発生 ○学校や地域でのけがの防止 ○犯罪から身を守るために ○けがの手当て ○運動 ○食事 ○休養 ○清潔
「心身の機能の発達に関すること」 ○心の発達 ○思春期の心 ○心と体のつながり

「ストレスへの対処」	
精神(心)と身体には、密接な関係があり、人前に出て緊張したときに脈拍が速くなったり口が渇いたりする、身体に痛みがある時には物事に集中できなかったりすることなどを理解することができる。	
心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であることを理解することができる。	
ストレスの原因や自分や周囲の状況に応じた仕方を選んで対処しようすることができる。	
「交通事故や自然災害などへの備えと対応」	
毎年多くの交通事故や事故などが発生し、登下校や学校生活で事故や犯罪の被害に多くの人が巻き込まれていることを理解することができる。	
事故などを防止するために、周囲の状況をよく見極め、危険に気が付き、的確な判断の下に安全に行動しようすることができる。	
地震が発生した場合に家屋の倒壊や家具の落下、転倒など原因となって危険が生じること。また、地震に伴って発生する津波、土砂崩れ、地割れ、火災などの二次災害によっても自然災害が生じることなどを理解することができる。	

ストレスへの対処における自分の課題を発見している。	
自分や友達のストレスへの対処に関して思考し、判断したことを他者に表現している。	
交通事故や自然災害への備えにおける自分や友達の課題を発見している。	
自分や友達の交通事故や自然災害などへの備えと対応に関して思考し、判断したことを他者に表現している。	

「ストレスへの対処」	
○不安やなやみへの対処 ○リラックス	
「交通事故や自然災害などへの備えと対応」	
○交通事故の防止 ○自然災害や緊急事態に備えて	

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例			
高2段階	各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防等の理解を深めるとともに、健康で安全な個人生活及び社会生活を営むための目的に応じた技能を身に付けること。	「けがや疾病の予防」		各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝える力をつける。	健康・安全に関わる自他の課題を	けがや疾病の予防手当等において、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考えて、選択している。		「けがや疾病の予防」 ○けがの発生 ○学校や地域でのけがの防止 ○犯罪から身を守るためにけがの手当て ○AEDの使い方 ○心肺蘇生法の仕方 ○生活習慣 ○運動 ○食事 ○休養 ○清潔 ○病気の起こり方 ○病原体と病気 ○生活の仕方と病気 ○パソコンやタブレットと健康 ○いろいろな病気 ○食中毒 ○エイズ ○喫煙の害 ○飲酒の害 ○薬物乱用の害 ○医薬品の正しい使い方 ○地域の様々な保健活動			
			傷害の発生には、適切な対策によって傷害の多くが防止できることを理解することができる。				けがや疾病の予防手当等の知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適応したり、応用したりしている。					
			止血、患部の保護や固定などの応急手当をすることができる。									
			AED(自動体外式除細動器)や心肺蘇生法などの応急手当に触れ、事故場面における使用方法などについて理解することができる。									
			日常経験しているかぜ等の予防について、適度な運動を定期的に行うこと等が生活習慣を身に付ける上で有効であることを理解することができる。									
			人々の病気を予防するために、居住地域の保健所や保健センター等で、健康な生活習慣に関わる情報提供等の活動を行っていることを理解することができる。									
			喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為が、社会環境によって助長されることを知り、それらに適切に対処する必要があることを理解することができる。									
			薬物乱用が、暴力、非行、犯罪など家庭、学校、地域社会にも深刻な影響を及ぼすことがあることを理解することができる。									
			「心身の機能の発達に関すること」				健康・安全に関わる自他の課題を	心身の機能の発達に関して、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考えて、選択している。			「心身の機能の発達に関すること」 ○心の発達 ○思春期の心 ○心と体のつながり	
			心と身体は密接な関係があることを踏まえ、適切な行動を身に付ける必要があることを理解することができる。					心身の機能の発達に関する知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適応したり、応用したりしている。				
			身体の発育や健康に関心をもち、身体の各部の働きを理解することができる。									
			「ストレスへの対処」					ストレスへの対処に関して、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考えて、選択している。				「ストレスへの対処」 ○不安や悩みへの対処 ○リラクセス
			心の発達などに伴って生じてくるストレス(不安や悩み)への適切な対応の方法を知り、活用することができる。					ストレスへの対処に関する知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適応したり、応用したりしている。				
			精神的な安定を図るために、自分や周囲の状況からよりよい方法を見付けて実行することができる。									
			「交通事故や自然災害などへの備えと対応」					健康・安全に関わる自他の課題を		交通事故や自然災害などへの備えと対応に関して、仲間とともに課題解決のための最善の方法を考えて、選択している。		
自転車や自動車の特性を知り、安全に行動することが必要であることを理解することができる。		交通事故や自然災害などへの備えと対応に関する知識や技能を、自他の課題に応じて、学習場面に適応したり、応用したりしている。										
自転車事故などを起こすことによる加害責任について理解することができる。												
災害時の安全の確保に備えておくことが、自他の安全を確保するために必要であることを理解することができる。												